

## 真夏の夜の恐怖話（回答編）

- 1 ○深田 札幌もいよいよ暑くなってきましたね。
- 2 ○岡田 そうだね。ただ、我が家には、ついにクーラーを配備したので、暑さはそれほど  
3 感じなくなったよ。
- 4 ○深田 えっ、そうなんですか。うらやましいですね。
- 5 ○岡田 そうなのよ。ただ、北海道では、クーラーをつけなくちゃいけない日なんてまれ  
6 だけだね。
- 7 ○深田 まあ、確かにそうですね。
- 8 ○岡田 昔は怖い話なんかをして、気分だけでも寒くなったのが懐かしい。
- 9 ○深田 そんなことありましたか。
- 10 ○岡田 それはあるさ。怖い番組だって、その時期にやっているでしょう。まあ、最近じゃ、  
11 背筋の凍る話というより、おどかさような内容が多いのは事実で、昔より質はぐっと  
12 下がったからね。
- 13 ○深田 それじゃ、涼しくなるような本当に怖い話をしてくださいよ。
- 14 ○岡田 では、話すよ。しかも、今回は、私が体験したりアルなやつだからね。
- 15 私が大学生のころの話だ。友人の多くは、地方からの出身者で、大学近くに部屋を借り  
16 て住んでいる。私はもともとここの土地の出身であり、大学までは1時間ほどの距離だっ  
17 た。ある日の夜、友人からお誘いの電話が鳴った。最近の大学生というのは何とも不真面  
18 目で、次の日に授業があるにもかかわらず、何の迷いもなく誘いに乗った。私は、時計を  
19 見る。時刻は、もう23時50分になろうとしている。私の家から地下鉄駅までは歩いて  
20 10分程度であり、急いで支度を整えれば、終電に間に合うかというあたりだ。そして、  
21 私は急いで家を飛び出し、最寄りの駅に駆け出した。その駅に行く間、一つの大きな公園  
22 を通ることになる。駅への入り口は、公園の対角線にある。急いでいる状況から考えれば、  
23 公園を突っ切っていけばよかったが、その日はそうしなかった。公園沿いの歩道をぐるり  
24 と回る。そこで、ふと、目にとまったものがあった。誰も乗っていないブランコがゆらり  
25 ゆらりと揺れていたのだ。私の心臓が一つ大きな音を立てる。次の瞬間、遊具の間を何か  
26 が横切ったような気がして、今度はそちらに目をやる。すると、砂場の真ん中に黒い影が  
27 見える。緊張しながら、それを見詰める。男の子だ。何だ、幽霊かと思って期待したのに、  
28 拍子抜けだ。しかし、私は、最終の電車に乗りながら、そのことを考え、少しだけ身震い  
29 した。
- 30 ○深田 えっ、どういうことですか。幽霊じゃなくて、ただの子どもだったんですよね。
- 31 ○岡田 そう、怖いでしょう。
- 32 ○深田 ただ怖いと思わせておいて、安心しただけの話じゃないんですか。
- 33 ○岡田 だって、私が乗ったのは終電だよ。もう深夜零時を回っているもの。何でそんな  
34 時間に子どもがひとりで砂場で遊んでいるのさ。
- 35 ○深田 ああ、なるほど。確かにそうですね。
- 36 ○岡田 それなら、幽霊であってほしいよ。まあ、幽霊であったのかもしれないけど。

## 真夏の夜の恐怖話（回答編）

- 37 ○深田 考えると怖い話ですね。
- 38 ○岡田 実はもう一つある。
- 39 ○深田 もっと寒くなる話を下さい。
- 40 ○岡田 会社までの徒歩通勤時に取り壊し予定の無人マンションの近くを通るのだが、そ
- 41 こは飛びおり自殺が多く、自殺者の霊の目撃情報も多いいわくつきのマンションだった。
- 42 周りには街灯も少ないし、夜はかなり不気味だ。この間、残業で帰りが23時ごろになっ
- 43 たとき、おびえながらそこを通ったのだが、一瞬、マンションの屋上に人影が見えた気が
- 44 した。びっくりして、心臓がとまるかと思った。よく見てみたが、やはり屋上に誰かが立
- 45 っている。まさか幽霊かと思った瞬間、その人が飛びおりた。コンクリートに打ちつけら
- 46 れる嫌な音がして、女の人が倒れているのが見えた。慌てて携帯電話で救急車を呼んで、
- 47 その場所に走った。血まみれで、足は変な方向を向いているし、幽霊ではなかったが、か
- 48 かなりの恐怖だった。落ちた音を聞いてか、マンションのベランダから何人かがこっちを見
- 49 ている。すぐに救急車が搬送していったが、家に帰っても現場を思い出してしまい、全く
- 50 眠れなかった。次の日に聞いたら、重傷だったが、命に別状はなかったらしい。本当に未
- 51 遂に終わってよかった。もし亡くなっていたら、憂鬱を通り越していた。
- 52 ○深田 救急車が意外に早いから、それを予想していたとか、あるいは、殺人だったとか。
- 53 ○岡田 そういうことじゃない。
- 54 ○深田 降参です。どういう意味ですか。
- 55 ○岡田 本当に考えているの。この話で重要なのは無人のマンションのベランダから誰か
- 56 が見ていたというところだ。
- 57 ○深田 ああ、寒くなってきました。
- 58 ○岡田 こういう話は、少し違う角度から物を見ないといけないよ。もっと柔軟な発想を
- 59 持ったほうがいい。
- 60 ○深田 岡田さんは、世間ずれしているから得意なんでしょう。普通の人とは私と同じ反応
- 61 をすると思いますよ。
- 62 ○岡田 皮肉っぽいけれども、それは褒め言葉とっておくよ。
- 63 ○深田 それじゃ、私から一ついいですか。
- 64 誕生日にホームパーティーを開いた。そのとき、家の中でみんなの写真を撮っていたら、
- 65 変なものが写った。背後の押し入れから見知らぬ青白い顔の女が顔を出し、こちらをにら
- 66 みつけている。これは怖いねということで、霊能力者に写真を鑑定してもらった。
- 67 ○岡田 そこでストップ。落ちが見えた。
- 68 ○深田 話の途中なのに、つまらないですね。
- 69 ○岡田 むしろ、この話はもう少し考えると、別な恐怖がある。
- 70 ○深田 どんな恐怖ですか。
- 71 ○岡田 さてね、それは君の想像にお任せするよ。
- 72

以 上